

結 果 の 要 約

1 本県の通勤・通学人口（P5～11）

- 本県の15歳以上人口のうち通勤・通学人口は371万6622人で、平成17年に比べ4万7513人(1.3%)増加しました。
- 15歳以上人口のうちの通勤・通学をする者と自宅で従業する者（従業または、通学をする者）の割合は66.2%で、平成17年の68.1%に比べ1.9ポイント低下しました。
- 本県から他県への流出人口は7万6646人で、うち岐阜県へは3万8106人と最も多く、全体の49.7%を占めています。
- 他県から本県への流入人口は18万6550人で、うち岐阜県からは11万8309人と最も多く、全体の63.4%を占めています。

2 市町村の通勤・通学人口（P12～13）

- 市町村の流出人口の増加率(対平成17年)は、長久手町が13.7%と最も高く、流入人口の増加率(対平成17年)は、阿久比町が24.4%と最も高くなっています。
- 従業地・通学地が他市区町村である者の割合は、扶桑町が72.5%と最も高くなっています。

3 名古屋市の通勤・通学人口（P14）

- 名古屋市へ他市町村から流入する人口は49万2687人で、平成17年に比べ2万1487人(4.2%)減少しました。
名古屋市への流入人口のうち県内では春日井市が4万2192人と最も多く、県外では岐阜市が1万3158人と最も多くなっています。

4 本県の昼間人口（P15）

- 本県の昼間人口は752万876人で、平成17年に比べ17万9491人(2.4%)増加しました。東京都、大阪府、神奈川県に次いで、全国第4位となっています。
- 昼夜間人口比率は101.5で、平成17年に比べ0.2ポイント低下しました。東京都、大阪府に次いで、全国第3位となっています。

5 市町村の昼間人口（P16～18）

- 市町村の昼夜間人口比率は飛島村が290.9、大口町が143.7、豊山町が122.4など名古屋市近郊の町村で高くなっています。

6 名古屋市の昼間人口（P18～19）

- 名古屋市中区の昼夜間人口比率は379.1で、全国の市区町村の中では5番目の高さとなっています。